



令和7年2月6日（木）発行

校長 栗原 友恵

北九州市小倉北区昭和町16番1号

HP: www.kita9.ed.jp/nakashima-e/

TEL: (093) 921-1690

<学校教育目標>

体・徳・知 調和のとれた心身ともに健康な子どもの育成

<目指す子ども像>

○相手の立場に立って考える思いやりのある子ども

○すすんで学び、自ら考え、表現する子ども

○元気に学び、すすんで運動に取り組む子ども

<目指す学校像>

○安全な学校 ○温かい学校

○笑顔があふれる学校

○「中島小大好き」と言える学校

○成長（学習）し続ける学校

○保護者・地域・関係機関と連携する学校

全国学力・学習状況調査 特集号

今年度4月18日（木）に行われた小学6年生及び中学3年生を対象とする「全国学力・学習状況調査」につきまして、個人の結果は既にお知らせしています。今回は、その結果を基に、今後の学習についてどのように取り組んでいくかをまとめました。（中島小学校HPにも掲載しています。）

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

学力調査の分析（傾向や特徴）	
国語	・全体的に、全国平均率を下回っている。 ・「書くこと」領域は、比較的正答率が高い。「話すこと・聞くこと」領域は、正答率が低い。 ・問題形式として、記述式は比較的正答率が高い。 ・選択式問題で無回答率が全国平均を上回っているものもあるが、全体的に無回答率は全国平均を下回っている。
数学	・全体的に全国平均を下回っている。 ・「変化と関係」領域は、比較的正答率が高い。 ・問題形式として、選択式は比較的正答率が高いが、記述式は正答率が低い。 ・記述式、短答式で無回答率が全国平均を上回っているものもあるが、全体的に無回答率は全国平均を下回っている。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の問いに対して約95パーセントの児童が肯定的に回答している。
- ・学習面に関しては、「PC・タブレットなどのICT機器を活用して、楽しみながら学習を進めることができる」の問いに対して90パーセントの児童が肯定的な回答をしている。今後もICT機器を活用した授業を行っていく。
- ・家庭学習に関しては、「学校の授業時間以外に平均1日当たりどのくらい勉強をしていますか」「休日に1日当たりどのくらい勉強していますか」の問いに対して、学習時間が少ない回答が多くみられた。今後も、家庭学習について学校全体で取組を進めていく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・基礎学力向上のため、国語、算数の既習の学習内容の定着を図る。
- ・朝自習の時間に新聞記事の要約をすることを通して、資料を読み取る力を育てる。
- ・学習形態や個に応じた支援の工夫を図ることで、意欲的に学習する態度を育てる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・各学年の学習内容を確認し、家庭学習の内容や量について全教職員で共通理解を図り、全校の取組としていく。
- ・自尊感情を高める活動を、全校で取り組む。
- ・児童や保護者を対象に実施しているアンケートを通して、児童の生活の実態を的確に把握し、取組を進めていく。